

(別紙1)

総括研究報告書

課題番号：30-24

課題名：不妊治療を受ける女性の精神的健康度と Quality of Life の変化に関する疫学研究

主任研究者名 (所属施設) 加藤承彦 (国立成育医療研究センター)
(所属・職名) 社会医学研究部 行動科学研究室 室長

(研究成果の要約)

本研究は、不妊治療を開始した女性の精神的健康と Quality of life の経時変化を追跡調査することで、不妊治療の経過に伴い、どのような人が治療過程のどの時点で精神的不調および QOL の低下を経験しやすいか、そして精神的健康度や QOL が妊娠成立に影響をおよぼすかどうかを検証する。平成 31/令和元年度は、3 年計画の 2 年目で、参加者の募集および追跡調査を行った。具体的には、調査票の配布および追跡調査の開始、2 回目以降の調査票の作成などである。年度当初は、参加者の集まりが思わしくなかったため、国立成育医療研究センターの不妊科の協力も得て、募集を開始した。また Web を通じた募集も開始し、結果、年度終わりまでに約 250 名の方にご参加頂いている。現在のところ、脱落率も低い状況で推移している。

1. 研究目的

本研究の目的本研究は、不妊治療を開始した女性の精神的健康と Quality of life (以後、QOL) の経時変化を追跡調査することで、不妊治療の経過に伴い、どのような人が治療過程のどの時点で精神的不調および QOL の低下を経験しやすいか、そして精神的健康度や QOL が妊娠成立に影響をおよぼすかどうかを検証する。より具体的には、①精神的不調および QOL 低下のリスク要因、②治療経過に伴う精神的健康及び QOL の変化、③それらが妊娠に与える影響を明らかにすることで、不妊治療に伴う女性の精神的不調および QOL 低下の予防および効果的な早期介入に向けた提言を行うことを最終的な目的としている。

2. 研究組織

研究者	所属施設
加藤承彦	成育医療研究センター
齊藤和毅	東京医科歯科大学
浦山ケビン	成育医療研究センター
森崎菜穂	成育医療研究センター
三瓶舞紀子	成育医療研究センター

3. 研究成果

本年度の研究は、3 年計画の 2 年目にあたり、参加者の募集および追跡調査を開始

した。まず、不妊治療を提供する 3 つの医療機関 (田園都市レディースクリニック、梅ヶ丘産婦人科、東京医科歯科大学) の協力が得られたので、各施設を訪問し、調査票の配布開始を依頼した。しかし、参加人数があまり増えなかったため、国立成育医療研究センターの不妊科にも協力を依頼し、調査票の配布を開始した。さらに、参加者募集の HP を作成し、ウェブ経由の募集を開始した。その際、国立成育医療研究センター広報や東尾理子氏など SNS (Twitter 等) で不妊治療に関して積極的に情報発信している方々にも協力を得た。その結果、現在約 260 名の方に調査にご参加頂いている。

現在、初回調査の結果を用いて、データ分析および論文作成 (英文・和文一編ずつ) を行っている。

また、本研究を実施するにあたって、追加の研究資金を獲得するために、いくつかの財団に助成の申請を行った。その結果、一つの財団 (日本経済研究センター) より助成を受けることができた。現在、その他三菱財団に助成の申請を行い、結果を待っており、秋頃の助成にも積極的に応募する予定である。

4. 研究内容の倫理面への配慮

本研究は、同意を得られた参加者に対して、質問紙を用いた疫学的調査を行う。調査協力の有無によって不利益を被ることはない。また、撤回書を渡しておくことでいつでも研究参加をとりやめることができるようにする。対象者の意思に沿うことで対象者の知る権利を尊重する。なお、本研究では、侵襲を伴う介入は実施しない。よって本研究に参加することで身体的な危険や苦痛等は発生しない。調査票は、解析等調

査内容に無関係の専従作業スタッフ 1 名が ID 匿名化及び ID と個人の連結表を作成し個人名及び住所とともに施錠管理する。これらの管理状況は、情報管理責任者として森崎が業務管理を行う。専従スタッフ 1 名を除く解析担当者は、ID 匿名化された情報のみを扱うが、万が一調査内容から個人が特定されることがないように、Web につながらない PC を用いて解析を行い、調査票およびデータは施錠管理する。